

実施日：2024年9月4日

研究テーマ：子どもたちが主体的に考える、算数の授業について研究する。



研究会の達成目標：授業を公開し、授業者・参観者双方の授業力向上に取り組む。

豊能地区3市2町で連携して、公開授業や研修等の機会を創出する。

活動内容

8月：池田市立秦野小学校の松波典和先生より「子どもたちが主体的に考える算数授業」という演題でお話をいただいた。まず、主体的という言葉に対するイメージを共有し、かけ算の例をもとに、子どもたちがどの瞬間に主体的な姿を見せているのかを考えて行った。今回は、「数学的活動を児童が自ら遂行する姿」だと定義づけた。そして、主体的に「何を」考えることが必要なのか、という点で数学的な見方・考え方に着目することが重要であると考えた。学ぶとは、夢中になることとの言葉が今後の私たちの算数教育にとって心に響いた言葉であった。

9月：豊中市立小曾根小学校の倉脇先生に3年生「小数」の授業を公開して頂き、見学の後、意見の交流を行った。

教科書各社の小数の単元の導入では、すべて液体の量が用いられているが、児童により身近で考えやすい教材だとして本時では時間を題材にすることとした。

事後検討会では、教科書で用いられている「かさ」ではなく「時間」を題材としたことの是非について多くの意見を交流することができた。授業者は、1秒を10等分することで短い時間を表現できることは、子どもたち自身も50Mを測ったことがあることから、実体験として経験済みであり、授業の中でも思い出しやすいのではないかと考えた。しかし、時間は目に見えるものではなく、差をはっきりと表現することが難しい

という課題もあった。また、ストップウォッチなどは小数第二位まで表記されていたり、10進法と60進法が混ざって考えたりという難しさも感じられた。

反面、かさの導入は10等分するという経験はLとdlの学習をした時に経験をしていることと、差が目に見えやすいことから子どもたちも表現がしやすいことから、導入に適している題材なのであろうと考えられた。

今後の活動

10月 公開研究授業

11月 公開研究授業

12月 公開研究授業

10月定例会では、豊中市立庄内さくら学園の余田先生に授業を公開していただき、検討会を行う予定である。本研究会は授業をもとに、研究テーマである「子どもたちが主体的に考える算数の授業」について知見を深めている。多くの先生に参加していただき、さまざまな角度から意見の交流を行いたい。